

進路に向けて役立てる

卒業生講話で仕事面など聴く

【美深】美深高等養護学校（大泉貞哉校長）の卒業生講話が、22日午前10時半から同校で行われ、在学中に取り組むべきことなど、今後の進路に向けて役立てた。

在学中は卓球部の部長を務め「ミーティングの時、みんなに話しかけていましたが、相手に物事を伝える方法が身に付きました」と語った。

一に感じたのは、体力づくりをやっていたのが良かったと思えます。一日仕事をやり切るために体力を付けることの大切さを感じました。

生徒たちからの質問に答え、仕事面で積極的な行動をするために『誰かがやってくれる』のではなく『自分がやる』という気持ちで、人任せにしないことが大切。

また、仕事が終わった後に自動車学校へ通い、免許を取得したことも語った。

高校で身に付いたことで仕事に役立ったことでは「仕事をして第

二に感じたのは、体力づくりをやっていたのが良かったと思えます。一日仕事をやり切るために体力を付けることの大切さを感じました。

とが大切。

とも語った。

（中村）

全校科の26人が受講し、講師は36期（2021年度）窯業科卒業生の安西大和さんが務めた。

安西さんは名寄市内で勤務（一般就労）。自宅から仕事場へ通勤

から買うようにしています。学生のうちにお金の大切さを学んでほしい」と促した。

余暇では、お金の管理や使い方で気を付ける点で「欲しいものがあつた時、本当に必要なものか、今すぐ買わなくてもよいものか、後のことをよく考えてから買うようにしています。学生のうちにお金の大切さを学んでほしい」と促した。

